清洲城下町遺跡（きよすじょうかまち）

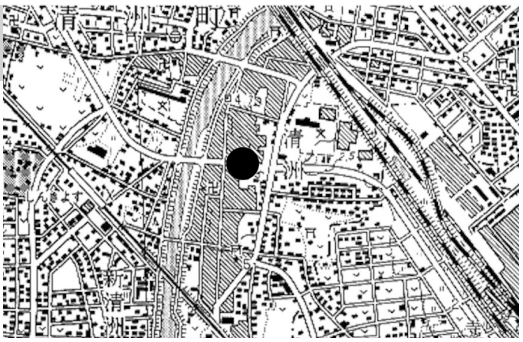
所　在　地　清須市清洲地内
（北緯35 度02 分58 秒 東経136 度06 分57 秒）

調査理由　街路新設改良工事（住宅基盤整備）3・4・616助七西市場線

調査期間　平成22 年4 月～平成22 年8 月

調査面積　780 ㎡

担　当　者　樋上昇・奥野絵美



調査地点（1/2.5万「清洲」

調査の経過　県道助七西市場線建設に伴う事前調査として、尾張建設事務所道路整備課から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。調査面積は約780 ㎡であり、調査区の西半分をA 区・東半分をB 区と設定して調査を行った。

立地と環境　清洲城下町遺跡は尾張平野南部に町域を広げ、名古屋市西区に東で接する西春日井郡清洲市に所在する。調査地点の旧態は住宅街であり、本調査区地点は1m 前後で盛土がなされている。

調査の概要　本調査区は、清洲城下町遺跡の南端部分に位置している。過去の調査成果からは、町家や武家屋敷が存在していたと推定される場所である。今回の調査で確認された遺構は、宿場町期の時期に属すると思われる大型建物跡・井戸・溝・土坑、城下町期に属すると思われる自然流路・溝・土坑跡などであった。

調査区の基本層序は、標高約5m の現地標高から現代の盛土および撹乱が約1m 入り、その下に宿場町期相当の整地面および遺構面が認められる。さらに下層には城下町期の遺構面が認められるが、見つかる遺構の数は少数である。セクション面の観察によると、地震の噴砂痕や洪水性の堆積物によって城下町期の土層は激しく撹拌されていることがわかる。そのため、城下町期の遺構の大部分はそれらの自然現象によって失われている可能性がある。

よって城下町期以前の本調査区付近は、地震や洪水に見舞われる地形として不安定な場所であったと思われる。その後、宿場町期以降に人間の生活の場として比較的安定した地形となり、幾度かにわたって大規模に整地が行われ、美濃街道沿いの宿場町として発展したと思われる。（奥野絵美）

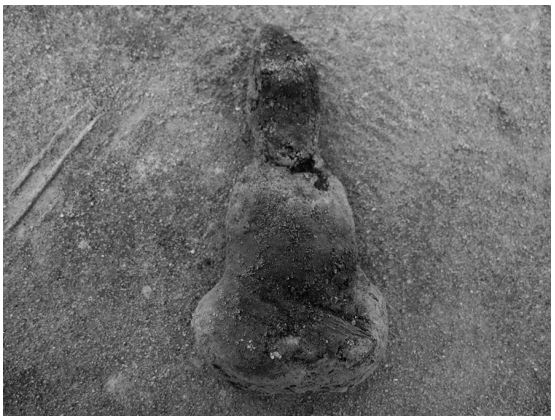
大型建物全景（宿場町期）

大型建物礎石出土状況写真

自然流路全景（北から）

結桶井戸（城下町期）

瓦積井戸（宿場町期）



懸仏（城下町期）

天目茶碗（城下町期）

花瓶（宿場町期）